

# 生活道路除排雪の在り方検討の経緯

## ■排雪支援制度の成り立ち

- 機械除雪がはじまった昭和20年代以降、札幌市では、交通量の多い幹線道路の排雪を実施しており、生活道路では排雪をおこなっていなかった

幹線道路の排雪作業や市民による雪割り運動の様子（昭和30年代）



ロータリ除雪車による排雪作業



市民による雪割り運動

- 排雪をおこなうことで雪解けが早くなるなど、より快適な冬季の生活環境が得られることから、地域から生活道路の排雪を望む声が上がり、排雪支援制度を創設

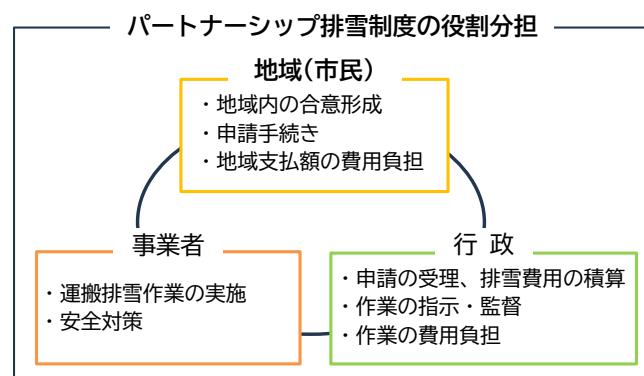
## ■排雪支援制度(市民助成トラック制度及びパートナーシップ排雪制度)

### (1) 市民助成トラック制度(昭和44年～現在)

- 町内会などで道路の排雪を行う場合、市から年1回、無料で運搬用トラックを貸し出す制度
- 雪を積み込む作業や交通誘導は、申請団体が業者を手配する等により実施

### (2) パートナーシップ排雪制度(平成4年～現在)

- 地域(市民)・除雪事業者・行政の3者が役割分担し、連携協力しながら生活道路の排雪を実施する制度
- 利用団体と札幌市で排雪費用を分担して実施



30年以上が経過・・・

### 【パートナーシップ排雪制度の課題】

- 昨今の在宅介護サービスや宅配などの普及により、地域住民以外の事業者も生活道路を通行するなど、**生活道路の役割や冬季道路環境に対する市民ニーズに変化**
- パートナーシップ排雪制度を利用する**地域の費用負担や不公平感は年々増大**
- 人口減少等に伴う将来的な除雪従事者の不足が見込まれ、**現行の排雪作業を継続し続けることが困難になる可能性**

令和5年度から

持続可能な生活道路除排雪の在り方について検討開始